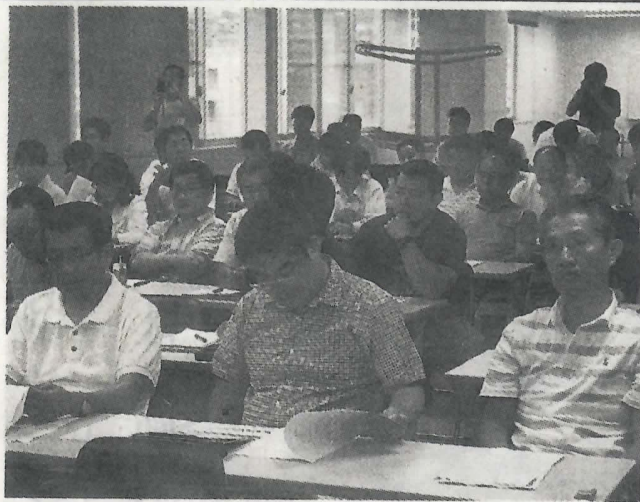


地域の合意形成を

沼仙気

市民有志
が主催
防潮堤勉強会に120人



スタートした防潮堤勉強会

気仙沼市の市民有志「行政関係者ら約120人による「防潮堤を勉強する会」が8日夜、気仙沼魚市場会議室で始まった。初回は市民や

行政関係者ら約120人が出席し、堤防高を決めた県河川課の門脇雅之課長、県議会で堤防問題を追及している

門脇課長は、海岸法に基づき堤防整備の流れ、津波シミュレーションの方法を説明。災害復旧工事は3年以内の完了が原則だが、今回は事業量が膨大なため、5年に緩和されたことなどを報告した。

阜山和純県議の講演を聴いた。

門脇課長は、海岸法に基づき堤防整備の流れ、津波シミュレーションの方法を説明。災害復旧工事は3年以内の完了が原則だが、今回は事業量が膨大なため、5年に緩和されたことなどを報告した。

阜山和純県議は、災害復旧費の県予算を認める上で、「地域住民の合意形成をしてから予算執行する」という付帯意見を全会一致で付けたことを紹介した。

その上で「賛成も反対もある中で、大切な

のは地域の中での合意形成だが、明治三陸級のレベル1津波に対応した堤防か、原型復旧かの選択肢だけでは難しい」と指摘した。このほか、今月中に村井嘉浩知事が来市し、何カ所か視察することを報告した。

堤防問題に関心の高い市民が集まり、堤防の構造やシミュレーションなどについて質問が相次いだため、勉強会は3時間に及んだ。堤防整備に伴う自然や生態系への影響を心配する質問には、門脇課長が「環境に配慮する要因があればしっ

かり調査する」と回答した。

勉強会は「正しい知識と情報を持って堤防問題を考えよう」と9月まで10回予定しており、次回は14日午後3時から市役所で小野寺五典衆議院議員の講演を聴く。